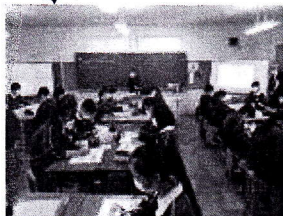




ハッピー通信



第41号
R2. 10. 22
那珂川教委



学力向上指導員訪問公開(馬頭中学校)より

10月21日(水)に、馬頭中学校で学校公開が行われました。授業は、2年1組において、理科「動物のなかま」(福田温子教諭)を行いました。どの生徒も集中し、前向きな学習態度で授業に臨んでいました。今回も、他校から8名の参観者があり充実した研修となりました。(文責 学校教育課 関一浩)

学習指導案(展開略案)【10/10】

1 学習内容の確認

【めあて】

動物の足形から、歩行様式と生活の様子を推論しよう。

- 足形から分かることを考え、何の動物のものか予想する。
- 3つのグループに分類する。
- 班の考えを発表する。
- 他の班で聞いたことを共有する。
- 振り返りを行う。

【学校課題】

生徒が意欲的に取り組む授業づくり
～「主体的・対話的で深い学び」の実践

【参観の観点】

- ねらいに沿った活動や話し合いができたか。
- ねらいに迫る手立ては効果的か。



【授業の様子】

分類では、「肉食動物か、草食動物か」「肉球やヒヅメなど足形の特徴」「木に登る、物をつかむなどの生活の様子」等に着目し、グループ協議を熱心に進めていました。



発表では、グループ(4名)内で、発表者1名、3名は他の発表の情報収集と役割を決め、工夫した発表形態を取り入れていました。

福田先生の的確な指示、ヒントカードやICTの活用などきめ細やかな授業が展開されました。生徒は、指示の下、活発に取り組んでいました。学業指導が徹底されており、日頃の指導の大切さを感じました。



【授業研究会から】

中学校は、教科担任制のため、ややもすると協議が消極的になってしまうことがあります。しかし、馬頭中学校では、教科の壁を超え、めあての設定は適切だったか、ねらいを達成するための学習活動は効果的だったか、課題を解決するためにどのような指導が考えられるか、熱心に協議していました。

【指導助言】

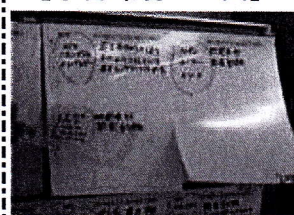
◎栃木県教育委員会義務教育課 室井雅史 指導主事

- ・ グループ活動では、男女が協力し、言葉でのやり取りが充実していました。やわらかな授業の雰囲気、言葉を促す先生の支援が印象的でした。
- ・ 考える手立て(効果的な教材や資料)が工夫されていました。
- ・ 「歩行」「生活」に迫るために、観点を絞ると、より話し合いに深まりが出ます。
- ・ 調査問題の様々な活用をお願いいたします。特に、授業での活用は学力を高めることにつながります。

◎栃木県教育委員会義務教育課 川上ひより 学力向上指導員

- ・ 結果の出ている学校は、教職員全員が、やるべきこと、課題等を共有しており、そのような姿になっています。先生方自身が「主体的・対話的で深い学び」の姿になっており、質の高い授業につながっています。
- ・ 中学校では、教科特有の語句をたくさん学ぶため、予習が大切です。明日やるところを読むなど、内容を目にするだけでも効果があります。
- ・ 中学生においては、時には、学習のまとめが、未来への意思表示(自分たちの生活との関わり)となることも大切です。

【学習環境の工夫】



「まなボード」の活用

「まなボード」は、台紙とビニルシートの間に、拡大したワークシートを挟んだボードです。

ワークシートの視点に基づき、まとめることができ、何回でも活用できます。